7．美しく快適なまちづくり

－都市基盤－

（1）都市計画の推進

10 年後のビジョン

市民一人ひとりが誇りを持って暮らしていける「南丹市らしさ」を支える都市基盤が整った自然環境と調和したにぎわいのあるまちをめざします。

現状と課題

◯南丹市の都市計画区域は、南丹市と亀岡市にまたがる南丹都市計画区域に指定されており、園部地域と八木地域にあります。市街化区域内における都市計画道路の整備や土地区画整理事業などの都市計画事業の実施による土地利用形態の変更にともない、用途地域の見直しを行っています。今後は、人口減少、少子高齢社会、市街地の低密度化の動向を踏まえ、持続可能な都市を形成していくためにコンパクトなまちづくりを推進していくことが必要となっています。

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
都市計画街路の整備率	%	70.5	71.4	73.9

施策の方向

①　南丹市の将来を見据えた都市計画の推進

〇市街地整備、道路ネットワーク整備、環境保全など、土地利用の方向性を明確に定めた都市計画を推進するとともに、持続可能な都市形成に向けて取り組んでいきます。

〇計画的な市街化の促進や交通利便性の向上などにより、定住促進に向けた快適で暮らしやすい生活空間の創出を図ります。

②　地域の個性を生かしたまちづくりの推進

〇地域の地形条件や自然条件を基本として、市全域を市街地地域、田園地域、森林地域に分類し、それぞれ固有の特性を生かしたまちづくりを進めます。

③　人と環境にやさしい交通結節点の整備

〇ＪＲ各駅の利便性向上に努めるとともに、駅前広場の整備や周辺整備を推進します。

市民に期待する取り組み

〇自分たちの暮らす地域の特性を知り、地域の将来に向けて、話し合ってみましょう。

〇環境の保全に取り組みましょう。

具体化する部門別計画

〇南丹市都市計画マスタープラン（2008～2027 年度）

〇南丹市立地適正化計画（2018 年度～）

（2）市街地の充実

10 年後のビジョン

地域の核となる市街地が、まちのにぎわいの中心、生活の中心として、南丹市内外の人に頼りにされる空間となるまちをめざします。

現状と課題

◯全国的に旧来からの市街地が空洞化し、その活性化のための取り組みが進められていますが、南丹市の市街地も、人口減少と高齢化、商業の低迷が進んでおり、かつてのにぎわいを失っています。

◯市街地の充実に際しては、高齢者や子どもも安全安心に暮らせる快適なまちづくりが求められています。

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
市街地における創業件数（年間）	件	2*	2	2

＊現状値は過去 5 年間の平均値から算出

施策の方向

①　にぎわいの核となる市街地整備

〇園部・八木地域では、市街化区域の立地を生かし、商業集積としての側面だけではない、新たなまちの拠点としての価値を見い出し、市民が集う新たな拠点として活性化させていく取り組みを進めます。

〇空き店舗対策やイベント開催、意欲的な経営者や工房などの誘致を支援します。

〇住宅整備や商業施設の誘導に努めます。

②　地域の生活拠点となるまちの充実

〇日吉・美山地域では、暮らしの中心となる地域を、利便性の向上やにぎわいの創出など、生活拠点とするまちづくりを図ります。

〇生活拠点にふさわしい都市機能の配置や開発の適切な誘導、地域特性を踏まえた個性ある基盤整備の推進などによって身近な生活拠点づくりを計画的に進め、市民の暮らしやすさをよりいっそう高めていきます。

市民に期待する取り組み

〇市街地の活性化にみんなで取り組みましょう。

〇市内の商業を消費者として応援しましょう。

（3）景観の保全・形成

10 年後のビジョン

「森」「里」「街」それぞれに異なる美しい景観が保全され、多くの人に親しまれるまちをめざします。

現状と課題

◯南丹市には、「森」「里」「街」それぞれに異なる美しい景観があります。これらは市民にとっての誇りであり、来訪者の心を癒す貴重な資源です。自然の景観としては、るり渓、芦生研究林、由良川や桂川などの森林・河川景観が挙げられます。2016（平成 28）年 3 月には京都丹波高原国定公園が指定され、南丹市では美山地域のほぼ全域と日吉・八木地域の一部がその区域に含まれています。

◯南丹市の重要な産業である農業は、今も美しい田園風景を形成しています。さらに、人々の生活文化や集落景観があり、特に日本の原風景が残る美山かやぶきの里は、全国的にも屈指の美観を保ち、南丹市を象徴する景観といえます。

◯南丹市は景観法に基づき、良好な景観形成のための施策を自ら行うことができる景観行政団体となっています。2014（平成 26）年 3 月に策定された、景観行政を進めるうえでの基本指針となる「南丹市景観計画」と「南丹市景観条例」、それらに加えて「南丹市美しいまちづくり条例」により、南丹市の良好な景観の保全に努めます。

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
「南丹市景観条例」に基づく届け出数（年間）	件	48	70	80

施策の方向

①　「森」「里」「街」の持続的な景観保全

○南丹市の景観形成の指針となる「南丹市景観計画」と「南丹市景観条例」に基づき、建築物の高さや色彩に一定の規制をすることにより、歴史ある町並み、田園風景など南丹市の多様な優れた景観の保全に努めます。

○森林・河川など、自然景観の保全を図るとともに、るり渓や日吉ダム周辺など自然体験型観光資源周辺の景観形成を図ります。また「京都丹波高原国定公園」に指定されたことを受け、京都府の「森の京都」事業と連携した自然環境の保全や体験型観光の促進などに取り組みます。

○文化資料の調査を行い、かやぶき民家を含めた歴史文化資源を保全する支援の仕組みづくりを進めます。

②　農林水産業と一体となった里山の景観・環境の保全

○農林水産業の有する多面的な機能が適切に維持、発揮されるよう、農林水産業振興のための支援や農林水産業従事者の育成･支援によって、田園や里山、農山村集落の景観保全を図ります。特に里山整備を促進し、各地域の個性を生かした自然環境の整備を進めます。

③　市街地景観の形成と保全

○都市計画や中心市街地の活性化、適切な景観誘導によって、市街地の景観を形成します。また、旧来からの集落や新興住宅地など異なる景観を持つ地域ごとに、今後も美しい景観を保存・形成できるよう地域への支援や啓発を進めます。

市民に期待する取り組み

○住宅地や市街地において緑化推進や景観形成に向けた市民相互の連携と協力に努めましょう。

○景観のためのルールや計画を知り、みんなで美しい景観づくりに参加しましょう。

具体化する部門別計画

○南丹市景観計画（2014 年度～）

○南丹市都市計画マスタープラン（2008～2027 年度）

（4）公園・緑地の整備

10 年後のビジョン

まちの公園や緑地が、市民の憩いの場として健全に利用されるとともに、周辺住民が維持管理にかかわり、地域コミュニティ形成にも役立つまちをめざします。

現状と課題

◯南丹市は、豊かな自然に囲まれた里山から田園地帯、市街地まで多様な生活環境を有しています。それぞれの地域で、こうした地域特性に応じた憩いの空間の確保が求められています。

◯市街地整備や土地区画整理事業を推進し、生活環境の確保や快適な空間を創出してきました。今後は、地域住民の憩いの場、交流の場となる公園・緑地の整備とともに、地域のコミュニティ形成、災害時の避難場所となる空間として維持管理していくことが求められています。

◯既存の公園施設では、施設の老朽化や樹木の繁茂により、事故や犯罪の発生が懸念されるケースも見られます。

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
都市公園の整備率	%	92	96	100

施策の方向

①　公園の整備と維持管理の充実

〇利用圏域などを考慮しながら、日常のレクリエーション活動の場、防災の拠点となる身近な公園・緑地の適正な配置を行うとともに、既存の公園・緑地、身近な広場などの機能向上や適正な維持管理に取り組みます。

〇市民との協働により施設の維持管理を図ります。また地域コミュニティ形成の場として、誰もが安心して利用できる公園づくりを推進します。

②　緑化の推進と緑地環境の保全

〇市民が主体となった緑化に向けて、緑に対する知識の普及や意識啓発を図るとともに、さまざまな面から支援に努めます。また、緑化活動を推進する人材の育成に努めます。

〇住宅地や商業地・工業地の特性に応じた緑化を推進します。また、街路樹の植栽や沿道における市民との協働による花壇づくりなどを推進し、沿道景観の向上に努めます。

〇公共施設では、緑化の先導役として積極的に緑化を推進します。

〇道路や歩行者空間、河川や水路・ため池などの水辺空間を活用し、公園・緑地や公共的施設などを相互に結びつける全市的な水と緑のネットワークづくりを進めます。

市民に期待する取り組み

〇公園を大切にし、きれいで快適な公園のための維持管理活動に参加しましょう。

具体化する部門別計画

〇南丹市都市計画マスタープラン（2008～2027 年度）

〇南丹市緑の基本計画（2008～2027 年度）

（5）住宅・住環境の充実

10 年後のビジョン

住宅需要を満たす良好な住宅地が増えるとともに、耐震面などの性能向上が図られた住宅も増えるなど、安心して暮らせる住宅ストック※が確保されたまちをめざします。

現状と課題

○定住を促進するため、土地区画整理事業の推進や空き家バンクの活用など、住宅を確保しやすい環境整備を図る必要があります。
○市営住宅の耐久性の向上や予防保全を図るため、計画的な維持管理を行い、住宅セーフティネット※としての充実を図ってきました。
○市営住宅の中には老朽化した住宅も多く、耐用年数などを鑑み、計画的に既存住宅の用途廃止を行うとともに、存続する住宅の維持・バリアフリー※化などを進める必要があります。
○近年の大規模地震により個人所有の住宅に対する耐震化の関心が高まっており、住環境の充実の観点から住宅耐震化事業など、住宅の耐震性能の向上を支援する取り組みが今後も求められています。

公的賃貸住宅の状況

種　別	団地数	戸数
公営住宅	16	249
特定公共賃貸住宅	4	25
改良住宅	1	26
府営住宅	1	24
計	22	324

資料：住宅課（平成 29 年 4 月 1 日現在）

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
公営住宅（府営住宅、特定公共賃貸住宅を除く）<管理戸数>	戸	249	249	249
空き家バンク活用件数（年間）	件	15	20	20

※住宅ストック：国内に建築されている既存の住宅のこと。
※住宅セーフティネット：住宅を確保するのが困難な方に対して、その居住を支援する仕組み。
※バリアフリー：建設設計において、段差や仕切りをなくすなど、あらゆる人に配慮をすること。

施策の方向

①　定住を促すための環境整備の推進

〇住宅を取得しやすい環境をつくるため、土地区画整理事業などの基盤整備を推進するとともに、空き家バンクの充実を図り、定住を促す環境を整備します。

②　安全で快適な住まいづくりの促進

〇住宅の耐震性に関する市民の関心を高めるとともに、耐震診断や耐震改修工事を誘導し、安全で災害に強い住まいづくりを促進します。

〇住宅改修の補助などにより、住宅のバリアフリー化の普及を図り、高齢者や障がいのある人などにやさしい住まいづくりを促進します。

〇省資源・省エネルギーなどに配慮した環境負荷の少ない設備の普及を図り、環境にやさしい住まいづくりを促進します。

③　市営住宅の整備

〇市営住宅の耐久性の向上や予防保全を図るための計画的な維持管理を行い、住宅セーフティネットとしての役割を果たしていきます。

〇住宅のバリアフリー化や安全性の確保のための性能向上を図るとともに、入居待機者の解消に向けた取り組みを推進します。

市民に期待する取り組み

〇住環境の保持に努めましょう。

〇住宅のバリアフリー化や耐震化に努めましょう。

具体化する部門別計画

〇南丹市住生活基本計画（2011～2020 年度）

〇南丹市公営住宅等長寿命化計画（2012～2021 年度）

（6）上水道の充実

10 年後のビジョン

健全な経営体制の下で、安全で安定的に水が供給されるまちをめざします。

現状と課題

○南丹市の水道事業は、上水道、16 の簡易水道および 3 つの飲料水供給施設で構成されています。事業別の構成比率は、上水道が約 59%、簡易水道および飲料水供給施設が合計約 41%となっています。2018 年 4 月から上水道事業と簡易水道事業を統合し、広域な市域で点在する水道施設の維持管理や施設の延命化を図るなかで、安定した水道事業の運営を図ります。

○水源は、上水道区域では井戸水、簡易水道区域においては、表流水および伏流水であり、夏季には一部の地域では渇水になる場合もあり、河川環境の保全も併せ、水源確保が必要です。また、限りある水の有効利用を促進するため、節水や漏水防止の取り組みが必要です。

○今後も、水を安定的に供給するため、老朽化した施設の定期的な更新や合理的な水道料金体系の改定などにより、健全で安定的な水道事業経営を図るとともに、技術的な対応能力を備えた技術職員の確保などが求められています。

○渇水時や、災害時における給水体制のよりいっそうの充実を図っていくことが必要です。

上水道の状況

	上水道	簡易水道	飲料水供給施設
給水人口（人）	19,289	13,014	102
普及率（%）	100	99.6	100
年間給水量（㎥）	2,630,650	2,025,689	13,631
1 日 1 人平均給水量（リットル）	374	426	357

資料：上水道課（平成 29 年 3 月 31 日現在）

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
有収率(上水道)	%	87.03	86.95	90.05
有収率(簡易水道)	%	81.91	−	−

＊2018 年度から上水道・簡易水道を統合するため、目標値は統合後の数値。

施策の方向

①　安全で安定した水道水の供給

○安全でおいしい水を安定的に確保するため、水源の確保と河川の環境保全に努めます。
○水道施設の老朽化が進んでいることから、配水管など水道施設について耐震化も兼ねた計画的更新を図ります。また、監視システムの維持に努めます。
○緊急時や災害時の対応、復旧体制の確立を図ります。
○統合した水道事業の安定した運営を進めます。

②　効率的な水道事業経営の推進

○安定した水道事業経営の継続に向け、ダウンサイジング※の検討や近隣市町との連携を図るとともに、職員の技術力の継承を進めます。
○適切な料金体系の設定を図るとともに、料金の納入未収金の解消に努めます。
○市民の水道事業に対する理解を深めるとともに、水の大切さについての意識高揚を図ります。

市民に期待する取り組み

○日頃から節水に努め、水を大切にしましょう。
○水道料金を期限内に納付しましょう。

具体化する部門別計画

○南丹市水道ビジョン（2017〜2026 年度）

※ダウンサイジング：もののサイズ（規模）を小さくすること。コスト（費用）の削減や効率化を目的として、より小型化のものを利用すること。

（7）下水道の充実

10 年後のビジョン

下水道の整備が計画どおりに進み、快適な市民生活と水環境が守られるまちをめざします。

現状と課題

◯家庭排水の適切な処理は、環境を守る視点からも重要な施策です。南丹市の家庭排水の処理は、公共下水道、特定環境保全公共下水道、農業集落排水施設、合併処理浄化槽で行われています。

◯公共下水道事業については、園部・八木地域が対象であり、他事業に絡む一部未整備地区の整備を計画的に進めています。

◯園部・八木・日吉地域を対象に 5 つの処理区がある特定環境保全公共下水道事業と、全地域に 19 の処理区がある農業集落排水事業については、100%の整備率となっています。しかしながら、未接続の世帯があることから、水洗化促進の啓発をしていく必要があります。

◯下水処理区以外の地区については、合併処理浄化槽の設置により対応しています。しかしながら、高齢化が進む中、浄化槽の設置費用の負担や宅内施設の改修などが必要となるため、経済的に困難な面もありますが、設置を促していく必要があります。

下水道の状況

	処理区域内面積（ha）	処理区域内戸数（戸）	事業認可区域内人口（人）A	処理区域内人口（人）B	普及率（%）B／A	水洗化戸数（戸）	水洗化人口（人）C	水洗化率（%）C／B
公共下水道事業	801.0	7,416	17,287	17,033	98.5	6,726	15,564	91.4
特定環境保全公共下水道事業	319.1	2,595	6,338	6,338	100	2,312	5,716	90.2
農業集落排水事業	371.0	2,335	5,474	5,474	100	2,119	5,067	92.6
合併処理浄化槽事業	ー	1,688	3,588	3,588	100	1,140	2,594	72.3

資料：下水道課（2017 年 4 月 1 日現在）

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
下水道区域水洗化率	%	91.3	94.3	93.9
合併浄化槽区域水洗化率	%	75.7	77.6	87.0

施策の方向

① 下水道事業の推進

○市民の衛生的で快適な暮らしを確保するため、また環境を保全するため、公共下水道の未整備地域の早期整備を図ります。

○処理区域では、各家庭が下水道の本管へ接続することで水洗化となることから、今後も接続されていない世帯に対し水洗化を働きかけ、環境保全に努めます。

○施設の長寿命化対策を図り、適切な維持管理に努めます。

○下水道処理区の統廃合による処理原価の低減を図るとともに、収納対策の強化などにより安定した下水道経営に努めます。

② 合併処理浄化槽の設置促進

○合併処理浄化槽については、未設置の世帯に対し設置を働きかけ、そのための支援を図ります。

○合併処理浄化槽の適切な維持・管理を啓発・指導します。

市民に期待する取り組み

○河川を汚さないように下水道や合併処理浄化槽の利用、設置に努めましょう。

○下水道使用料を期限内に納付しましょう。

具体化する部門別計画

○南丹市生活排水基本計画（2016～2020 年度）

○南丹市下水道事業経営戦略（2017～2026 年度）

（８）河川環境の整備

10 年後のビジョン

水害への対策がなされ、災害に強く、自然環境が保全された河川環境の整ったまちをめざします。

現状と課題

◯南丹市には淀川と由良川の二つの水系があり、その清流とホタルなどの貴重な生態は南丹市の誇りとなっています。しかし、近年はアユ・アマゴなどの河川種苗放流をしても鳥類や外来魚による食害が増加し、個体数が目立って減少するなど生態系の変化が確認されており、河川環境の改善に漁業協同組合とともに取り組んでいます。

◯市内の河川は、大雨時に市街地や山村集落に水害をもたらしてきており、特に近年の台風や集中豪雨の増加など、河川の氾濫や浸水被害など、災害への不安も高まっています。

◯一方で桂川や由良川の支流の集落において水害が多く発生しており、こうした事態に対処するため、桂川、由良川、園部川などでの河川改修とともに、支流河川での治水対策など、早期の対応が求められています。

◯山間部においては地質的に弱いところや危険箇所があり、がけ崩れや土石流などの土砂災害が懸念されます。このため、今後も治山事業や砂防事業などにより、防災対策を進める必要があります。

目標指標

指標名			単位	現状値	目標値	
					5年後	10 年後
河川の水質	越方橋(園部町)	pH		6.3～7.8	6.5～8.5 以内	6.5～8.5 以内
		BOD	mg/L	1.0	0.7 未満	0.7 未満
		SS	mg/L	4.0	4.0 未満	4.0 未満
	大堰橋(八木町)	pH		7.1～7.5	6.5～8.5 以内	6.5～8.5 以内
		BOD	mg/L	0.9	0.7 未満	0.7 未満
		SS	mg/L	8.0	4.0 未満	4.0 未満
	出合橋(美山町)	pH		6.5～8.0	6.5～8.5 以内	6.5～8.5 以内
		BOD	mg/L	0.6	0.5 未満	0.5 未満
		SS	mg/L	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満
	和泉大橋(美山町)	pH		6.8～8.2	6.5～8.5 以内	6.5～8.5 以内
		BOD	mg/L	0.7	0.5 未満	0.5 未満
		SS	mg/L	3.0	1.0 未満	1.0 未満

※ｐＨ：potential of hydrogen の略称で、溶液中の水素イオンの濃度をいう。ｐＨ＝7 が中性。ｐＨの値が中性よりも小さくなればなるほど酸性が強く、逆に中性よりも大きくなればなるほどアルカリ性が強い。

※ＢＯＤ：生物化学的酸素要求量（Biochemical Oxygen Demand）の略称で、水中の有機物を微生物が無機化あるいはガス化するときに必要な酸素量のこと。この数値が大きくなれば、水質が汚濁していることを意味する。

※ＳＳ：懸濁物質（Suspended Solid）の略称で、水中に浮遊している物質の量のこと。一定量の水をろ紙でこし、乾燥してその重量を測る。数値が大きい程、その水の濁りが多いことを示している。

施策の方向

①　災害に強い河川環境の整備

〇崖崩れ、地すべり、土石流などの災害防止のため、国や府へ危険箇所の対策とともに、治山・砂防事業の推進を要望します。

〇豪雨や台風時の河川氾濫による浸水被害を防ぐため、府に対して桂川、由良川、園部川などの早期改修を要望するとともに市管理河川についても計画的に改修を進めます。

〇河川の浚渫や、河川護岸の老朽化、洗掘などに対する維持管理工事を行い、出水時の安全を確保します。また河川法面の除草などを行うことで、河川の通水能力を維持するとともに、河川環境の美化を図ります。

②　生態系に配慮した河川環境の保全

〇水質の調査を進めるとともに、ダム湖周辺の環境保全、漁業協同組合との連携による河川の環境整備を進めます。

〇下水道への接続と合併処理浄化槽の整備を図り、生活排水の河川への流入を防ぎます。

〇護岸工事などの河川改修について、自然環境や多様な生態系に配慮した多自然川づくりを推進し、河川環境の保全に努めるとともに、国・府へ要望を行います。

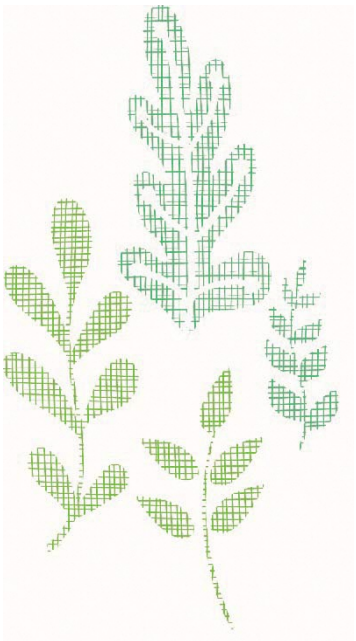
〇府、河川流域の市町、河川を愛護する人々との広域的な交流を進め、水系を保全するネットワークの形成を図ります。

市民に期待する取り組み

〇下水道への接続や合併処理浄化槽の適切な管理を心がけましょう。

〇生活排水に気を配り、きれいな川を守りましょう。

※多自然川づくり：河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域のくらしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境や、多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うこと。



（9）道路網の充実

10 年後のビジョン

まちづくりを支える基盤としての道路網が整備され、市内外の円滑な交流や経済活動が活発なまちをめざします。

現状と課題

◯広大な南丹市にあって、安全で快適な道路の整備は、経済の発展や生活の向上をもたらす、市民生活に欠かせないものであるとともに、市街地の形成や大規模災害時における支援物資の輸送などさまざまな機能を保障するもので、まちづくりを進めるうえで大切な都市基盤整備の一つです。また市としての一体化の醸成や他地域との交流、暮らしの利便性の確保、過疎集落の維持などまちづくりの根幹にかかわる重要な施策でもあります。

◯南丹市は京都市に隣接しているうえ、大阪市、神戸市とも至近であることから、これら京阪神都市部へのアクセスの向上および時間距離の短縮は、市の発展に大きくかかわります。京都縦貫自動車道の全線開通によって、南丹市と京都府北部や若狭方面、京都府南部や奈良方面とのアクセスが大きく向上しました。さらに京都市との連携を強化するためには、国道 9 号の機能強化が不可欠といえます。

◯南丹市周辺の広域幹線道路（国道 423 号、国道 477 号、国道 162 号）では拡幅整備が引き続き課題となっており、京阪神方面へのアクセス向上を図るため、整備促進を図っていく必要があります。

◯その他、南丹市と近隣市町を結ぶ広域幹線としての機能面が強い一般国道、南丹市の市内移動を支える府道と市道などには、危険箇所や狭あい区間もまだ多く、今後の整備が望まれます。特に急峻な地形も多い南丹市にあっては、安全面の確保を最優先に取り組む必要があります。また橋梁や道路の長寿命化とともに、これまでの車優先の道路整備から歩行者優先の人にやさしい安全で歩いて楽しい道づくりが求められています。

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
道路改良率※	%	65.23	65.57	65.91

※道路改良率：車道幅員が 5.5m 以上に改良された道路（改良済道路）の延長の、道路全延長に対する比率。

施策の方向

①　広域アクセスの強化とネットワークの充実

○快適で安全な道路環境の確保、京阪神都市部とのアクセス強化に向け、国道や府道の整備充実について、関係機関に対し積極的な働きかけを行います。

○京都縦貫自動車道の全線開通によるアクセスの向上や国道 477 号などのアクセスの向上を見据え、都市圏からの時間的短縮による定住促進や企業誘致、観光振興を進めます。

②　広域幹線道路の整備

○市としての総合的な道路交通計画、市全体の体系的かつ将来を見据えた道路ネットワークのビジョンを描き、国道の危険箇所の改修や機能向上を国に働きかけます。

③　暮らしを支える地域幹線道路の適切な維持管理

○府道については、市内の円滑な交通環境の維持、市域の一体化を促進するため、危険箇所や狭あい箇所、通行不能区間の解消に向けた早期の整備を府に働きかけます。

○市道については、地域の実情に応じた市道の整備・改良に努め、生活道路の安全性、利便性の確保に向けた道路の整備を推進します。

○老朽化した橋梁を計画的に延命化整備や架け替えを行うとともに車両の大型化・重量化に対応した整備を実施します。

④　人にやさしい道路環境の整備

○全ての人にとって安全・安心で利用しやすい道路整備を進め、危険箇所の点検と改善、歩道の拡幅整備やバリアフリー化などの交通安全施設の設置などを図ります。

○災害を想定した緊急車両の通過などにも配慮した生活道路の改善、安全かつ迅速に避難することができる避難路の整備に努めます。

市民に期待する取り組み

○きれいな道を保つため、ポイ捨てや違法な路上駐車をやめましょう。

○歩いて楽しい道づくりのため、地域の緑化などを進めましょう。

具体化する部門別計画

○南丹市都市計画マスタープラン（2008～2027 年度）

（１０）公共交通の充実

10 年後のビジョン

人や環境にやさしい公共交通体系が充実し、誰もが外出しやすいまちをめざします。

現状と課題

○南丹市には、京都駅から日本海方面へと至るＪＲ山陰本線が走っており、市内に八木駅、吉富駅、園部駅、船岡駅、日吉駅、鍼灸大学前駅、胡麻駅の７つの駅があります。2010（平成 22）年 3 月に、京都・園部間の複線化による運行開始となり、快速列車の増発、所要時間の短縮、上下線均衡のとれたパターンダイヤ設定が図られました。
○複線化効果により市民の生活圏の拡大や定住人口の増加が期待される一方で、市内に住む学生や就労者が亀岡市や京都市へ流出することも予測されます。今後は、市街地整備など定住促進施策により、複線化を南丹市の活性化に結びつけるまちづくりが必要です。
○市民からは園部駅以北の複線化の要望もあり、園部・綾部間の複線化事業に向け関係機関とも連携を図りながらＪＲ西日本へさらなる複線化を働きかけています。
○南丹市では、南丹市営バスとして、スクールバスの一般混乗を行いながら計 16 路線を直営で運行しています。また、民間バス会社が園部、八木地域での運行を行っています。
○園部地域の一部は民間事業者への委託によってコミュニティバス（通称：ぐるりんバス）3 路線を運行しています。
○これらのほか、福祉サービスとして介護予防や介護の必要な高齢者、障がいがあり移動が困難な人を対象とした外出支援サービスにより、医療機関などへの送迎を行っています。
○市民の生活交通（通院、買い物）確保のために、2011（平成 23）年度から日吉・美山地域でデマンドバスの実証実験を行い、2012（平成 24）年 10 月から本格運行を行っています。また、2012（平成 24）年度からは八木地域でも実証実験を行い、2013（平成 25）年度から本格運行を行っています。

公共交通利用者の推移

	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
バス利用者数（人）	358,782	362,022	356,625	323,810	329,041
市内JR駅利用者数（1日）	15,704	15,820	15,754	15,468	15,722

資料：地域振興課

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
バス利用者数	人	329,041	333,900	352,500
市内JR駅利用者数（1日）	人	15,722	16,000	17,000

施策の方向

①　ＪＲ山陰本線の複線化

○園部駅以北の複線化や接続ダイヤの利便性の向上について、市民や関係市町および「山陰本線京都中部複線化促進協議会」などと連携し、引き続きＪＲ西日本へ働きかけます。

②　鉄道を生かしたまちづくり

○公共交通ターミナルの機能を強化するため、八木駅舎の改築と、八木駅、吉富駅、園部駅の駅周辺整備を進めます。
○地域住民などによる駅周辺の美化活動や見回り活動などを支援します。
○鉄道との接続を考慮したバス交通のダイヤ編成など、鉄道利用者の利便性を高めます。
○観光イベントの開催と集客によって鉄道利用客の増加を促し、ＪＲと連携した観光振興を図ります。

③　バス交通の充実

○地域のニーズを把握したうえで、バス交通網の維持と拡充を図ります。
○バスシステムの利便性を高めるとともに、通勤通学における利用促進やノーマイカーデーの機会を通じて積極的にバスの利用促進を図ります。
○誰もが乗り降りしやすいノンステップバス※の導入などに努めます。
○ドライブレコーダー※の導入など、より安全に配慮した市営バスの運行を実施します。

④　多様な公共交通システムの整備

○多くの集落が広大な市域に点在し、多くの集落で過疎化、高齢化が進む南丹市にとって有効な移動支援方法や交通システムの在り方を市民とともに常に検討し、必要に応じて導入を図っていきます。また、小型車輌の導入やオンデマンドシステム※による移送、民間委託なども検討します。
○高齢者や障がいがある人など、移動困難な方が安心して外出し社会参加できるよう、外出支援サービスの充実を図ります。また、ＮＰＯなどによる福祉運送活動を支援します。

市民に期待する取り組み

○鉄道や路線バスを積極的に利用しましょう。
○きれいな駅を保つため、駅でのポイ捨てや路上駐輪をやめましょう。
○高齢化が進む集落も多く、みんなで助け合える地域交通システムを考えてみましょう。

※ノンステップバス：入り口から出口まで階段なしで乗り降りができる床の低いバスのこと。
※ドライブレコーダー：交通事故の瞬間を映像などで記録する車載型の装置のこと。
※オンデマンドシステム：顧客や利用者の要求（デマンド）があった時、その都度サービスを提供する方式。交通においては、常時運行されている定期バスや鉄道はオンデマンドでなく、無線タクシーがオンデマンドとなる。

（１１）情報通信基盤の充実

10 年後のビジョン

誰もがほしい情報を、いつでもどこでも得られるまちをめざします。

現状と課題

◯今日の情報化社会においては、高度な情報基盤が行政サービスの提供や市民生活のために必要不可欠なものとなっています。

◯南丹市は、市域の大半が難視聴地域で人口密度が低いことから、民間のＦＴＴＨ※サービスが提供されていない地域が多数ある状況でした。このため、都市部との情報格差をなくし、市内全域でさまざまな情報サービスを得られるよう、家庭や事業所、公共施設を光ファイバー※で結びケーブルテレビやインターネットサービスを提供する南丹市地域情報通信基盤整備事業を実施し、全市域でＦＴＴＨネットワークが完成しています。

◯南丹市情報センターでは、自主放送番組を制作しケーブルテレビで放映しており、各地域の暮らしや市民活動に密着し、市の一体感を形成する番組づくりを進めています。

◯高度情報基盤については防災・防犯などへの活用が考えられることから、今後多面的に検討を進め、豊かな暮らしを支える充実した公共情報サービスを実現していく必要があります。

目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10 年後
CATV加入率	%	89	90	90

※ＦＴＴＨ：Fiber To The Home（ファイバー・トゥー・ザ・ホーム）の略称。通信事業者の基地局から各家庭まで光ファイバーを敷設すること。

※光ファイバー：光によって信号を伝達する細いガラスの繊維で、銅線ケーブルに比べ大容量のデータ通信が可能となる。

施策の方向

①　情報基盤の整備

○高度情報ネットワークの活用を広げるため、市民や事業所にサービス加入を促します。

○情報通信技術の動向を調査し、常に情報通信環境の最適化を図ります。また、ハード、ソフトの保守体制の充実を図ります。

②　情報提供の推進

○南丹市情報センターの自主放送番組を充実し、市の一体化の形成と市民の交流を図ります。また、データ放送※の活用により、行政情報だけでなく、気象情報や学校情報、地域の情報などをきめ細かく配信し、市民の方が情報を選択して取得できる体制の確立をめざします。あわせて、緊急時の避難情報などについては、Ｌ字放送※やデータ放送の配信などを活用し、的確かつ迅速に伝えられるように努めます。

○高度情報基盤を、防災、防犯などさまざまな市民サービスに活用するため、検討を進めます。

③　情報環境の整備

○より多くの市民が高度情報基盤を利用できるよう、高齢者などを対象としたパソコンの操作に関する勉強会などの充実に努めます。

○インターネットなどのセキュリティ※について、市民に対し啓発を進めます。

市民に期待する取り組み

○ケーブルテレビに加入しましょう。

○インターネット社会での犯罪やウィルスなどの危険を学び、自ら被害を防ぐ努力をしましょう。

○情報社会や情報機器操作について家族や仲間同士で積極的に学習しましょう。

※データ放送：テレビ放送などの放送用電波を利用して、文字情報や静止画などのデータ（情報）を提供する放送サービス。

※Ｌ字放送：テレビの通常放送の画面に、字幕情報をアルファベットのＬの字の形のように表示させる画像手法のこと。放送されている映像は縮小して表示される。

※セキュリティ：安全。防犯。

市民ワークショップから出た市民の主な意見・アイデア

まちづくりの基本方針「7．美しく快適なまちづくり」に関連した、市民ワークショップで市民から出された主な意見やアイデアを掲載します。

７．美しく快適なまちづくり【都市基盤】

基本施策	主な意見･アイデア
都市計画の推進	○4 町それぞれの特徴を生かしたまちづくりを進める。 ○駅前はガランとしていて、もっと人の流れを創る工夫が必要である。
市街地の充実	○駅前の通りの空き店舗をギャラリーにする。 ○国際交流会館にコミュニティスペースを設置する（カフェやシェアオフィスなど）。
景観の保全・形成	○農のある景観を維持していく。 ○集落を残したり、里山や農地が維持されることが大切である。 ○かやぶき民家の景観を大切にし、保存する。
住宅・住環境の充実	○古民家シェアハウスをたくさんつくる。 ○農のある暮らしができる二拠点居住のメッカにする。 ○空き家を活用し、短期でも長期でも滞在できる宿泊施設を整備する。
河川環境の整備	○るり渓を流れる園部川を、さらにきれいな川にする。
道路網の充実	○自転車専用レーンを増やす（速度制限を設ける）。
公共交通の充実	○車が運転できない高齢者が家に閉じこもらないようにする。 ○病院や医院などに行く交通手段が確保されているまちにする。 ○簡単に予約できるデマンドバスが、縦横無尽にたくさん走っているまちにする。 ○地域でワゴン車を運行する。 ○乗り合いでスーパーや病院などに行く集落の仕組みをつくる。 ○ゴルフカートのような、高齢者でも運転できる電動自動車を普及させる。
情報通信基盤の充実	○電波障害を心配せず、通信速度が速く、どこでもインターネットができるように、情報通信基盤を充実させてほしい。 ○ケーブルテレビを活用し、地域での話題のきっかけづくりやコミュニティづくり、地域の郷土愛の醸成などに生かす。 ○地域の人材を活用し、ケーブルテレビで趣味講座を放映する。